

技能・技術実践研修カリキュラム

コース番号	コース名				期間	
6108	構造用木材の強度試験とデータ処理法				令和7年 5月20日(火)～ 5月21日(水)	
開催会場	職業能力開発総合大学校（東京都小平市）				定員	日数
					10	2
研修種別	技能・技術分野	建築設計・施工	技能・技術レベル	L2	技能・技術要素	建築材料（応用）
研修のねらい 及び 到達目標	<p>断面寸法や接合部の条件を決定するために、構造物を構成する各部材の基準値が建築基準法等に示されていますが、その中で定められていない樹種や寸法の材料を用いる場合、当該材料の強度試験により得られるデータから、各種の基準値を求めることが必要になります。本研修では、建築に用いる構造用木材の強度試験とデータ処理を行うことにより、設計用の基準値等を算出する手法を習得することを目指します。（到達目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木材の各種強度試験ができる 					
最低限 必要な知識	木材の材料試験法について基本的な知識を有すること。					
研 修 内 容	項 目（予 定）				講義	実技・演習
	1 木材の強度試験と設計用強度の求め方 (1) 木材の設計用強度 (2) 強度試験法と評価方法 (3) 強度試験データによる設計用基準値の算定法 (4) 公設試の活用				3 H	
	2 模擬データによる強度試験データの処理と評価 (1) 実験準備の演習 (2) データ処理及び評価・報告の演習					3 H
	3 木材の曲げ試験結果と統計的処理 (1) スギ実大材（120mm 角、長さ 3000mm）の曲げ試験 (2) 実験結果のデータ処理 (3) スギ材の設計用基準値の算出					5 H
	4 研修効果を職業訓練に展開するためのディスカッション (1) 意見交換（教材、指導法等）				1 H	
					4 H	8 H
リニューアル の概要 及びアピール ポイント	「R を用いた木材の材料試験結果の統計的処理法」をリニューアルし、R 言語の演習を止め、表計算ソフトの処理テクニックを紹介しながら実験データ処理と統計処理を行うことにした。					
研修成果が 活用できる 職務	職務 1		職務 2		職務の内容	
	建築施工		躯体工事		木造軸組	
担当教員 (ユニット)	園田 里見、飯田 隆一（木工・塗装・デザインユニット）、外部講師					
使用する 機器等	表計算ソフト、曲げ試験機、データロガー、パソコン、電動工具					
受講者が用意 するテキスト (予定)						